

(3) 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

1) 人口に関する状況

① 草津市の人口

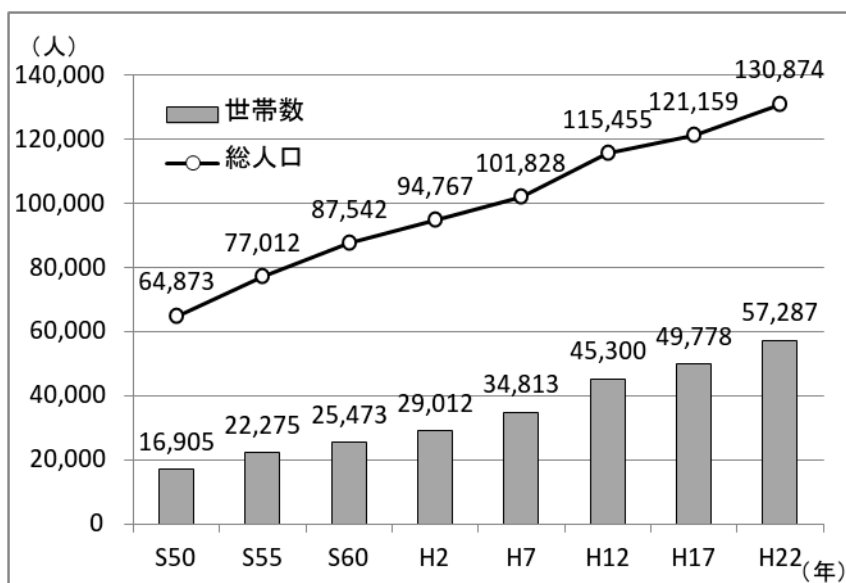
◎ 全国的にも珍しい人口増加の続くまち

草津市は、現在も人口増加を続けている、全国でも数少ない人口増加の自治体である。平成 22 年国勢調査で、総人口は 130,874 人となっている。

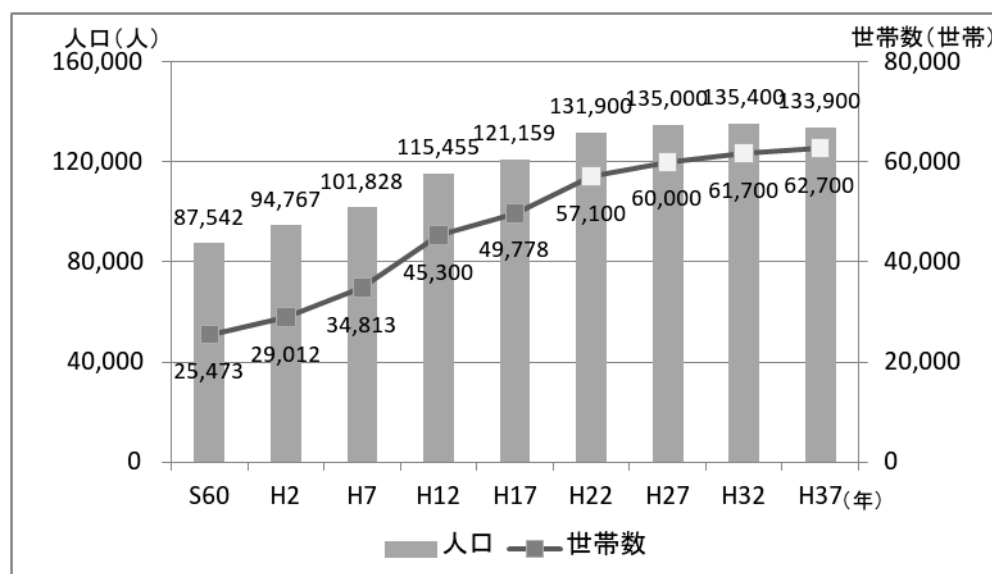
人口増加率は、平成 12 年から 22 年までの 10 年間で約 1.13 倍、平成 2 年から 22 年までの 20 年間で約 1.38 倍となっている。

草津市は、滋賀県内の市町村の中で、大津市に次いで 2 番目の人口規模であるが、市域の面積は大津市の方が大きいため、人口密度は大津市の 727.5 人/km²を大きく上回り 1926.9 人/km²となっており、人口集積度が高くなっている。

今後の草津市の人口について、草津市の将来人口予測(第 5 次草津市総合計画基本構想)によると、平成 32 年の約 13.5 万人が最大となって、その後、人口減少に転じることを見込んでいる。



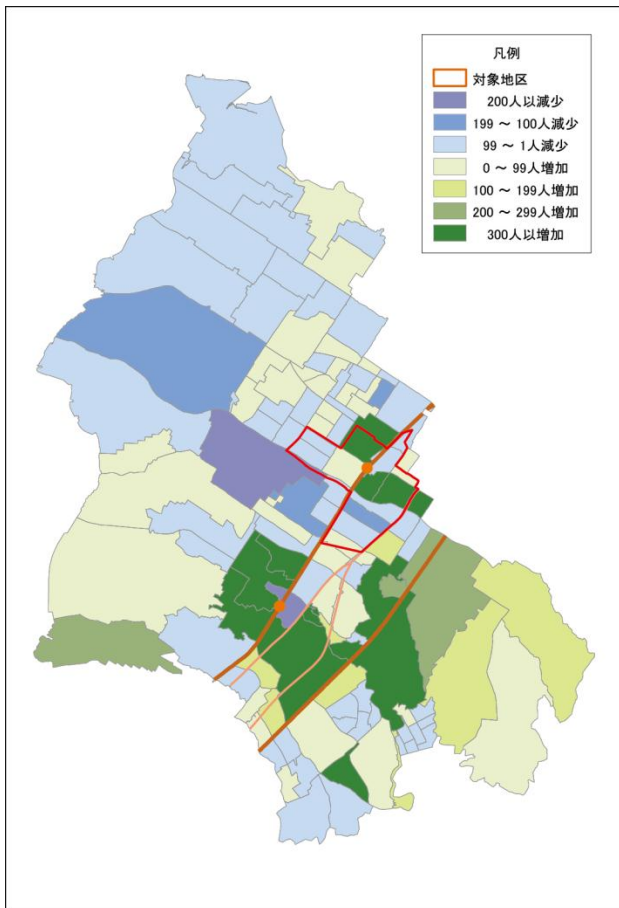
● 図 1-37 草津市の人口・世帯数の推移 (出典：各年国勢調査)



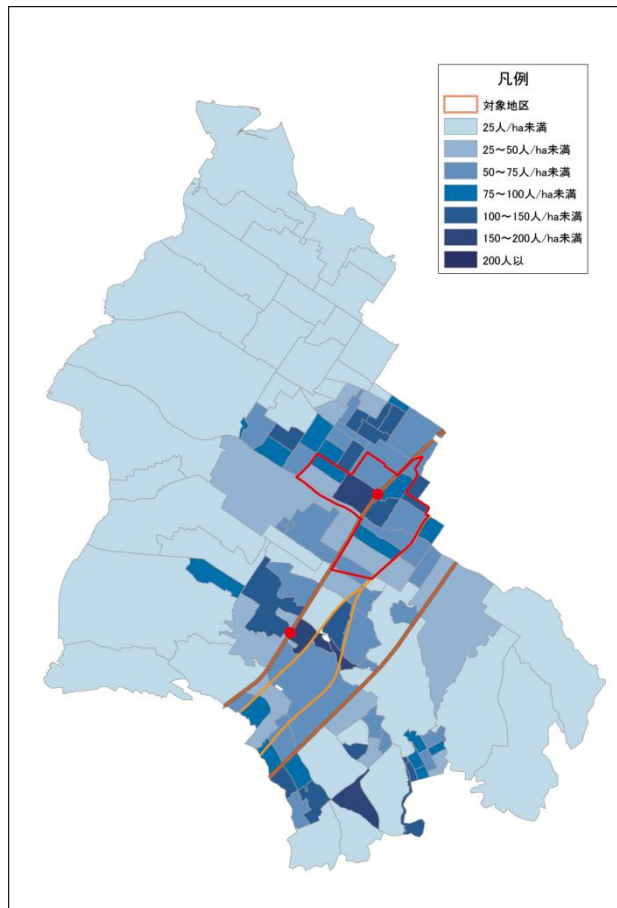
● 図 1-38 草津市の将来人口予測 (出典：第 5 次草津市総合計画基本構想)

草津市の人口増減（平成 17 年と 22 年国勢調査）では、JR 草津駅と JR 南草津駅の周辺、及び東海道新幹線沿いの郊外住宅開発地域で人口が増加している。一方、JR 草津駅の北西地域と草津市の琵琶湖に面した北西地域、南側の一部丘陵地域で人口減少が著しい。

草津市の人口密度（平成 22 年国勢調査）では、JR 草津駅と JR 南草津駅の周辺、及び JR 東海道線（琵琶湖線）沿いと東海道新幹線沿いとその間が特に高くなっている。また、JR 草津駅の北西側と南西側の郊外住宅開発地域などでも高くなっている。



● 図 1-39 草津市の人口増減
（出典：平成 17、22 年国勢調査）



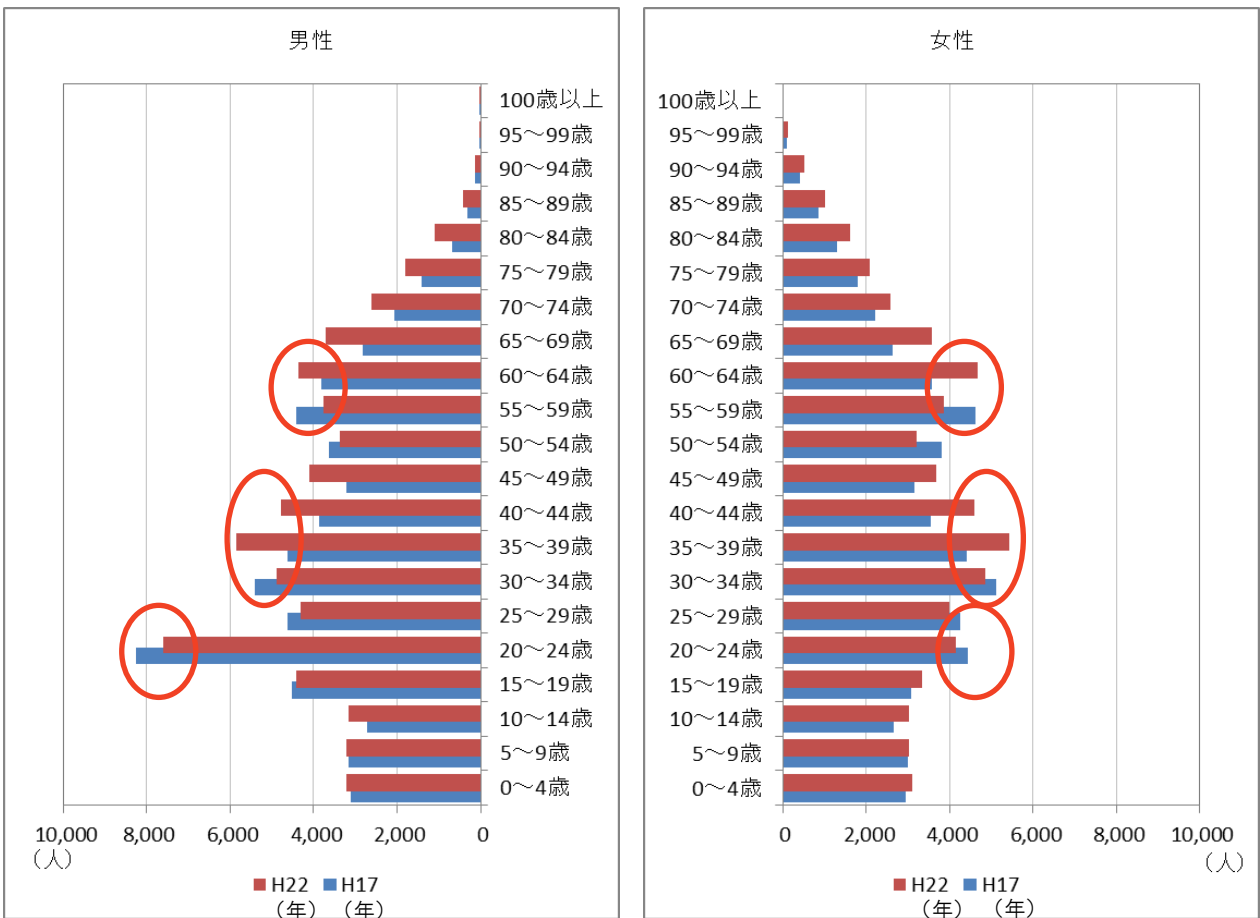
● 図 1-40 草津市の人口密度
（出典：平成 22 年国勢調査）

◎30、40歳代の人口が多く転入しているまち

年齢階層別人口でみると、団塊の世代の人口が多く、今後、ますます高齢化が進むと考えられる。

また、30、40歳代の人口が多く、その世代の人口はこの5年間で増加していることから、30、40歳代が多く転入していることがわかる。こうした「30、40歳代の人口が多く、かつ、30、40歳代が多く転入している」状況は、他の自治体ではあまり見られないことから、草津市の特徴的な人口構成といえる。

なお、20歳代前半が多くなっているのは、平成6年に立命館大学が立地し、市内に多くの大学生が居住していることによる。



● 図 1-41 草津市の年齢階層別人口の推移 (出典：各年国勢調査)

②草津市の昼間人口

◎流入人口が流出人口よりも多いまち

草津市は、京都・大阪都市圏の自然豊かなベッドタウンとして発展してきたが、市内に大学や大手企業等の工場が立地していることもまた、草津市の特色である。

このため、昼間人口の142,677人に対して、夜間人口は130,874人と昼間人口のほうが多く、昼間人口比率は109.0%となっており、流入人口が流出人口よりも多くなっている。

草津市との交流人口（流入人口）が最も多いのは、隣接する大津市（13,422人）であるが、京都府（6,567人）との交流人口も次に多くなっている。これは、鉄道や高速道路でのアクセスの良さに因るものと考えられる。

	昼間人口(人) (A)	夜間人口(人) (B)	昼夜間人口比率 (B/A)
滋賀県	1,363,302	1,410,777	96.6
草津市	142,677	130,874	109.0
大津市	310,912	337,634	92.1
近江八幡市	74,153	81,738	90.7
守山市	69,654	76,560	91.0
栗東市	64,183	63,655	100.8

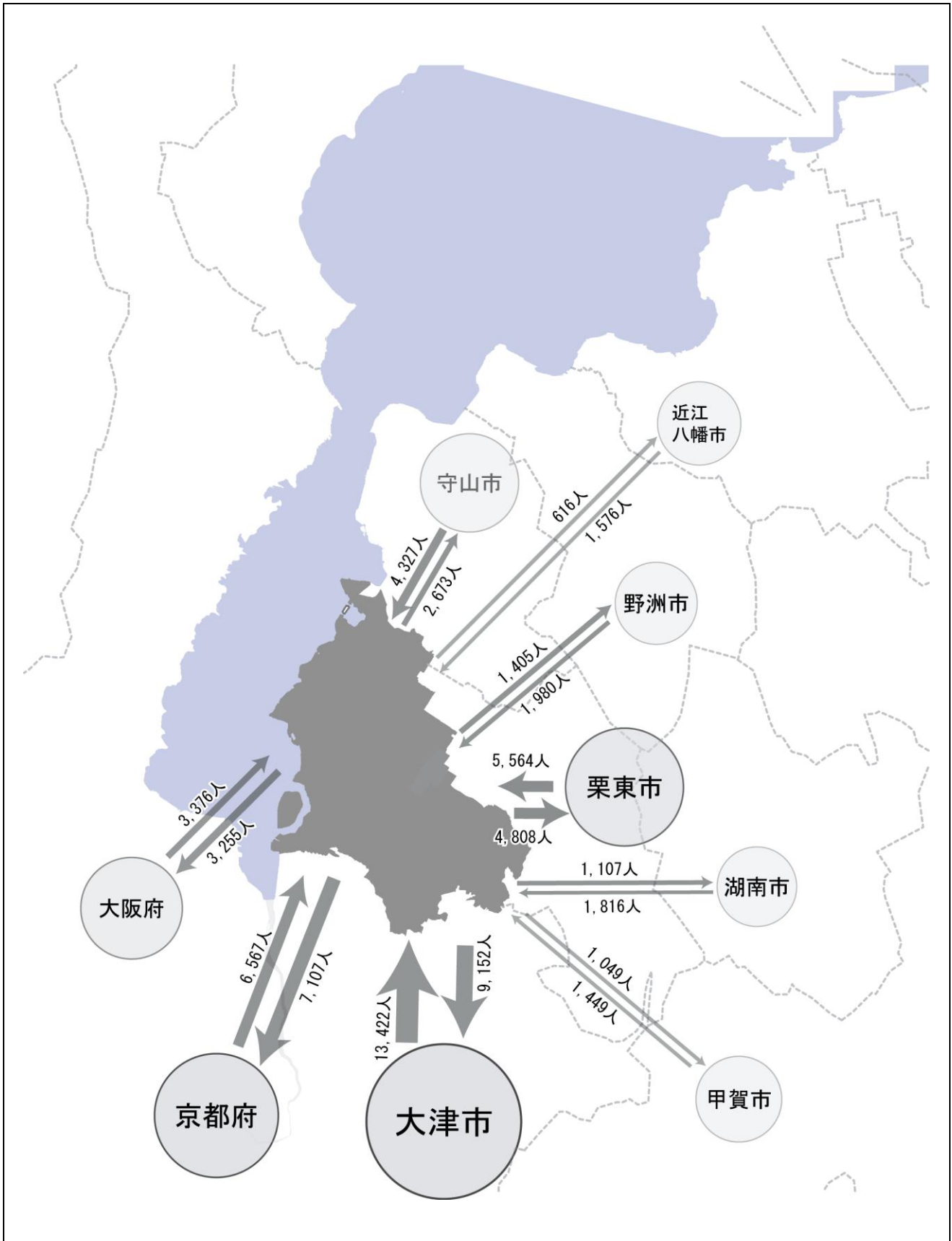
●表 1-7 草津市と周辺都市の昼夜間人口（出典：平成 22 年国勢調査）

		総数(人)	就業者(人)	通学者(人)
草津市で就業・通学する者		85,104	69,175	15,929
草津市に住む者		36,421	29,511	6,910
他市町村に住む者(流入人口)		45,437	36,977	8,460
	大津市	13,422	11,978	1,444
	近江八幡市	1,576	1,372	204
	守山市	4,327	3,786	541
	栗東市	5,564	5,033	531
	甲賀市	1,449	1,175	274
	野洲市	1,980	1,625	355
	湖南市	1,816	1,571	245
	京都府	6,567	4,800	1,767
	大阪府	3,376	1,959	1,417

●表 1-8 草津市の流入人口（出典：平成 22 年国勢調査）

		総数(人)	就業者(人)	通学者(人)
草津市に常在する就業者・通学者		73,098	61,563	11,535
草津市で従業・通学する者		36,421	29,511	6,910
他市町村で従業・通学する者(流出人口)		34,745	30,464	4,281
	大津市	9,152	7,793	1,359
	近江八幡市	616	524	92
	守山市	2,673	2,427	246
	栗東市	4,808	4,571	237
	甲賀市	1,049	1,016	33
	野洲市	1,405	1,374	31
	湖南市	1,107	1,063	44
	京都府	7,107	5,777	1,330
	大阪府	3,255	2,826	429

●表 1-9 草津市の流出人口（出典：平成 22 年国勢調査）



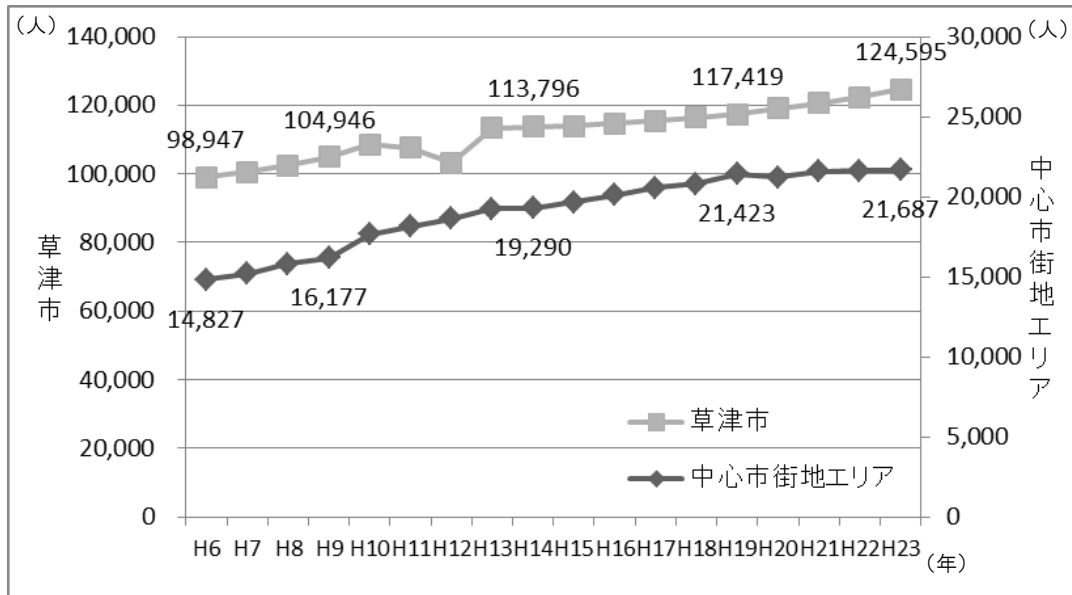
● 図 1-42 草津市の流出入人口（出典：平成 22 年国勢調査）

③ 中心市街地の人口

◎ 中心市街地の人口は増加

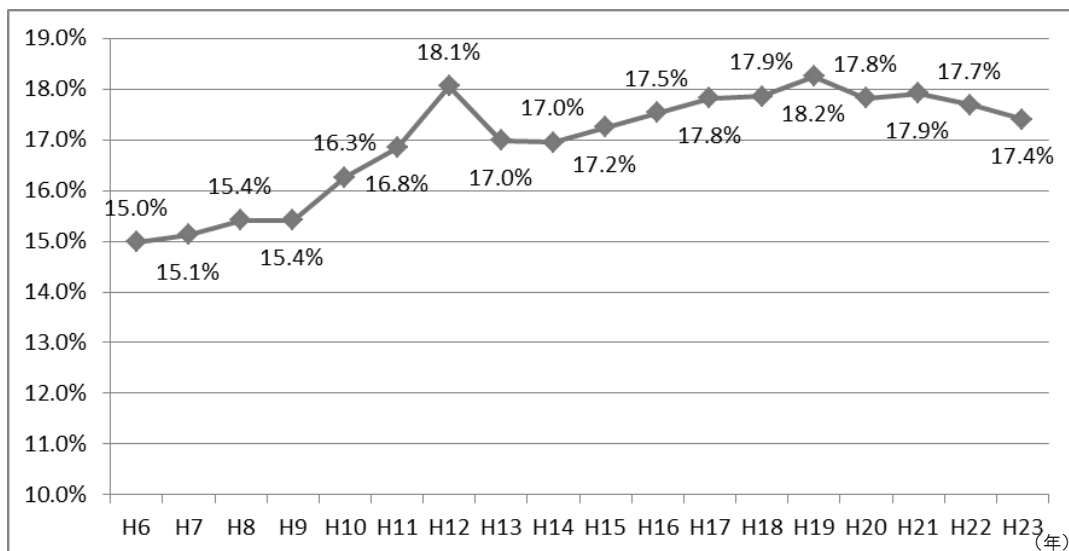
中心市街地区域の人口が増加しているのに対し、区域内の人口の、草津市の人口に対するシェア率は、ほぼ横ばいで推移している。そのことから草津市全体の人口も増加しており、中心市街地のみに人口が集中していないことがわかる。

平成 23 年の中心市街地における人口は、草津市全体の人口の約 17.4% を占めている。平成 14 年から 23 年までの約 10 年間でも、ほぼ 17% 台で推移している。



● 図 1-43 草津市と中心市街地の人口推移

(出典：各年草津市統計書(各年10月1日時点の総人口))



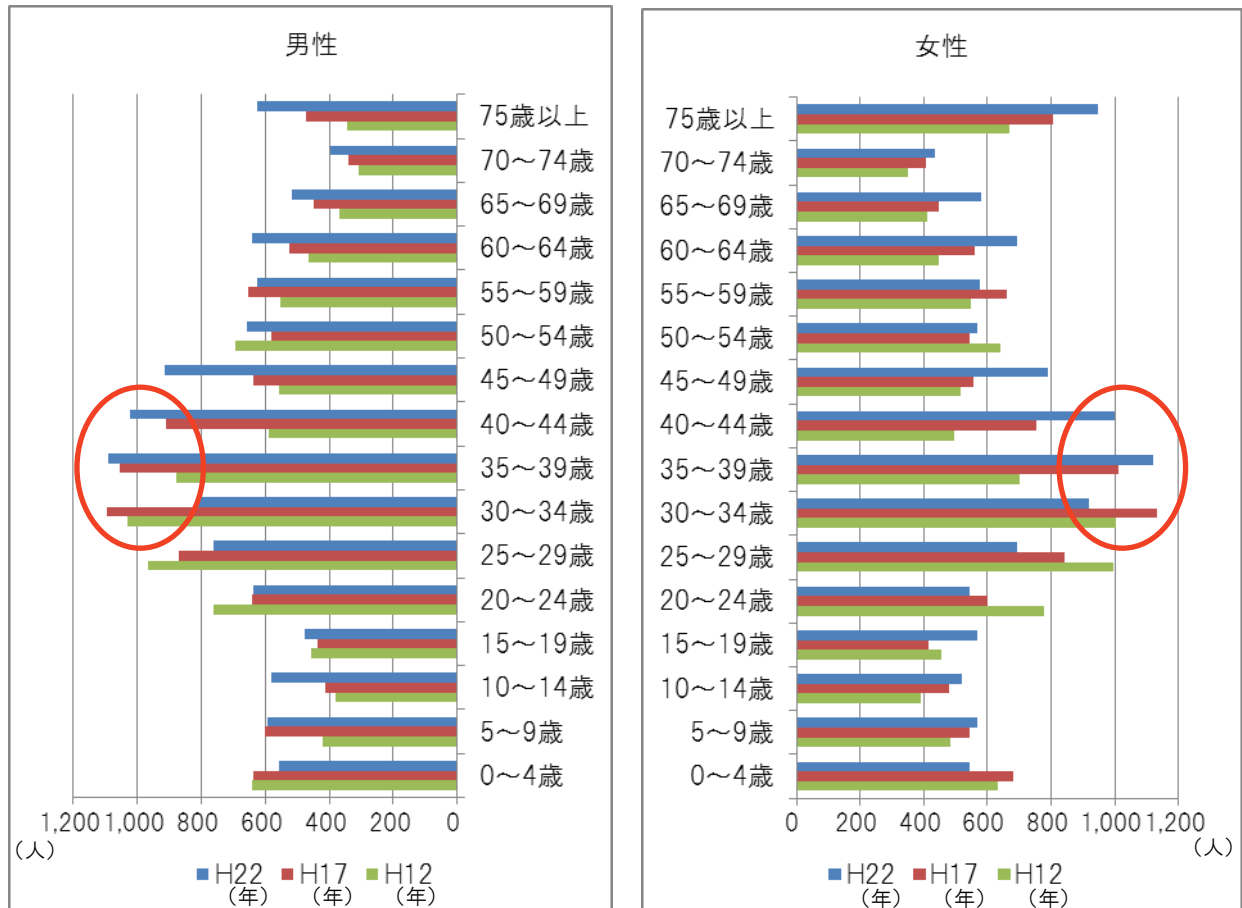
● 図 1-44 中心市街地の人口が草津市の人口に占める割合

(出典：各年草津市統計書(各年10月1日時点の総人口))

◎若い世代の高層マンションへの転入が多い

年齢階層別人口をみると、30歳代、40歳代の人口が多く、かつ、その世代の人口はこの10年間で増加していることから、30歳代、40歳代が中心市街地内に転入していることがわかる。これは、中心市街地内の高層（大規模）マンションなどにその世代が転入してきていると推測される。

また、平成12年と17年の20歳代の人口も多かったが、平成22年には減っている。

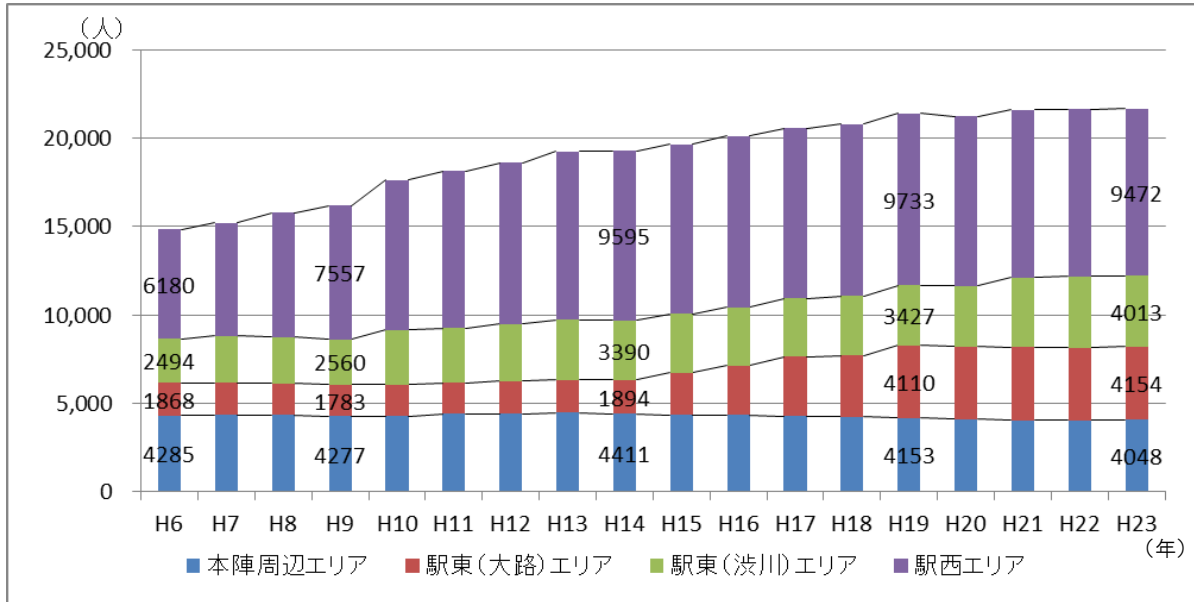


● 図 1-45 中心市街地の年齢階層別人口の推移 (出典：各年国勢調査)

④ 中心市街地のエリア別人口

◎ 高層マンションによる人口増加と古くからのまちでの人口減少

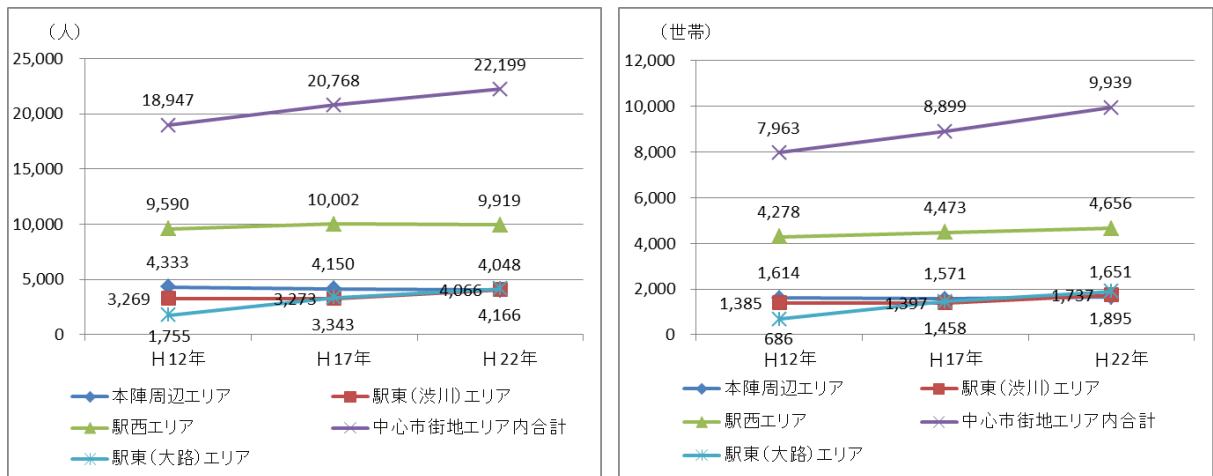
ほとんどのエリアで人口が増加傾向にあり、中でも高層（大規模）マンションが建設された駅前（大路）エリアでは平成12年～22年の11年間で約2.4倍に増加している。一方、古くからの住宅地である本陣周辺エリアでは減少している。全体ではこの約20年間で人口、世帯数いずれも約1.2倍に増加している。



本陣周辺エリア：草津1～4丁目
 駅前（大路）エリア：大路1、2丁目
 駅前（渋川）エリア：渋川1、2丁目、若竹町
 駅西エリア：西渋川1丁目、西大路町、野村1～3、6丁目

● 図1-46 中心市街地のエリア別人口の推移

(出典：各年草津市統計書（各年10月1日時点の総人口）)



● 図1-47 中心市街地のエリア別人口・世帯数の推移 (出典：各年国勢調査)

人口	平成12年	平成17年	平成22年	世帯数	平成12年	平成17年	平成22年
本陣周辺エリア	4,333	4,150	4,048	本陣周辺エリア	1,614	1,571	1,651
駅前(大路)エリア	1,755	3,343	4,166	駅前(大路)エリア	686	1,458	1,895
駅前(渋川)エリア	3,269	3,273	4,066	駅前(渋川)エリア	1,385	1,397	1,737
駅西エリア	9,590	10,002	9,919	駅西エリア	4,278	4,473	4,656
中心市街地エリア内合計	18,947	20,768	22,199	中心市街地エリア内合計	7,963	8,899	9,939

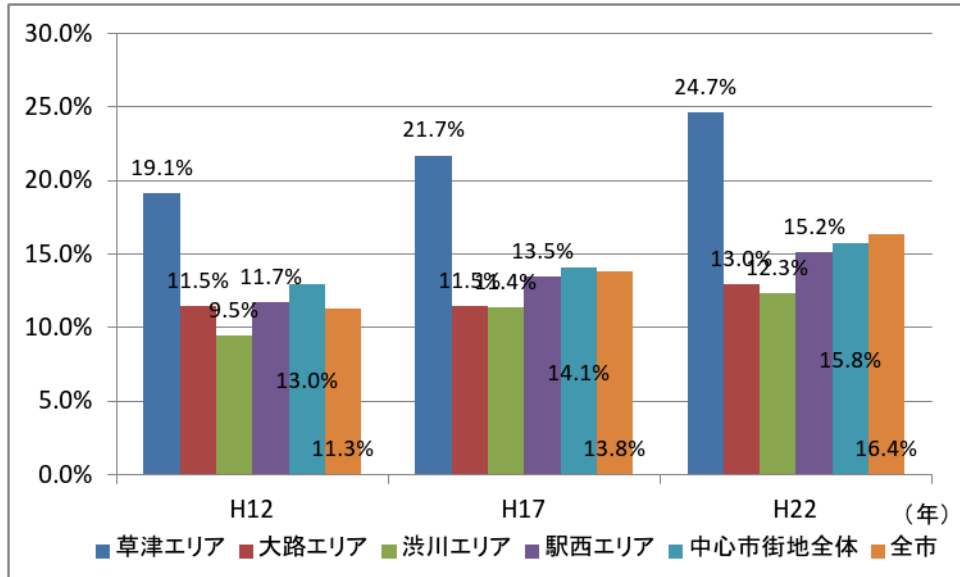
● 表1-10 中心市街地のエリア別人口・世帯数 (出典：各年国勢調査)

⑤ 中心市街地の高齢化率

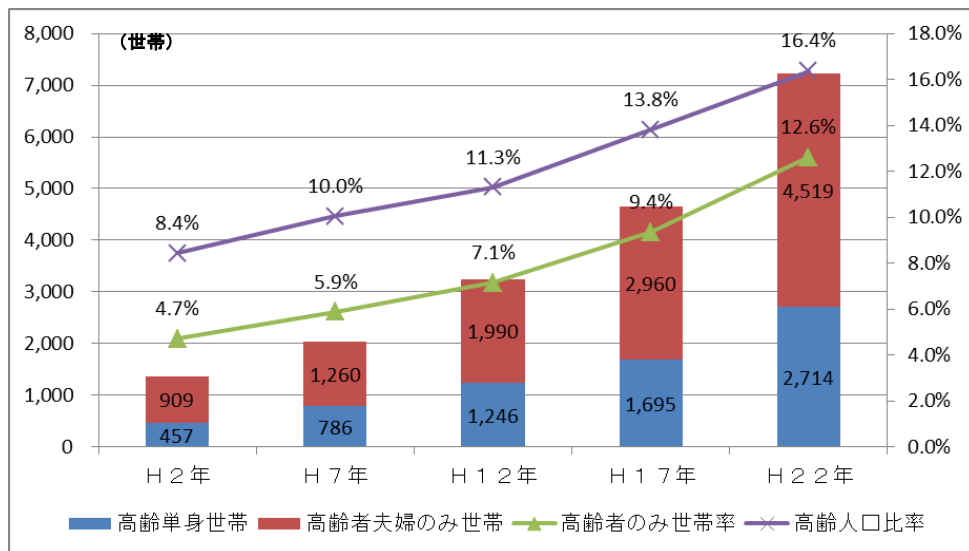
◎ 平成 17 年までの高齢化率は中心市街地が高かったが、平成 22 年の高齢化率は市全体が高い。

高齢化率は、平成 12 年～22 年の 11 年で、草津市全体が 11.3%から 16.4%へ、中心市街地が 13.0%から 15.8%へと、高い割合で推移した。平成 17 年までの高齢化率は市全体よりも中心市街地が高かったが、平成 22 年の高齢化率は中心市街地よりも市全体が高くなっている。

また、草津市全体では、高齢単身世帯や高齢者夫婦のみの世帯等、高齢者のみで構成されている世帯も急増しており、中心市街地内でも同じような現象が起こっていると予想される。



● 図 1-48 中心市街地と草津市の高齢化率の推移の比較（出典：各年国勢調査）



● 図 1-49 草津市の高齢化率と世帯員に高齢者が含まれる世帯数（出典：各年国勢調査）

	高齢単身世帯	高齢者夫婦のみ世帯	高齢者のみ世帯率	高齢人口比率
H 2 年	457 世帯	909 世帯	4.7%	8.4%
H 7 年	786 世帯	1,260 世帯	5.9%	10.0%
H 1 2 年	1,246 世帯	1,990 世帯	7.1%	11.3%
H 1 7 年	1,695 世帯	2,960 世帯	9.4%	13.8%
H 2 2 年	2,714 世帯	4,519 世帯	12.6%	16.4%

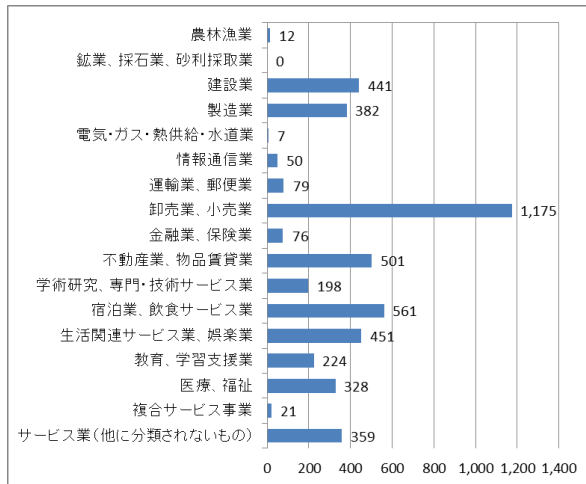
● 表 1-11 草津市の世帯員に高齢者が含まれる世帯数（出典：各年国勢調査）

2) 産業に関する状況

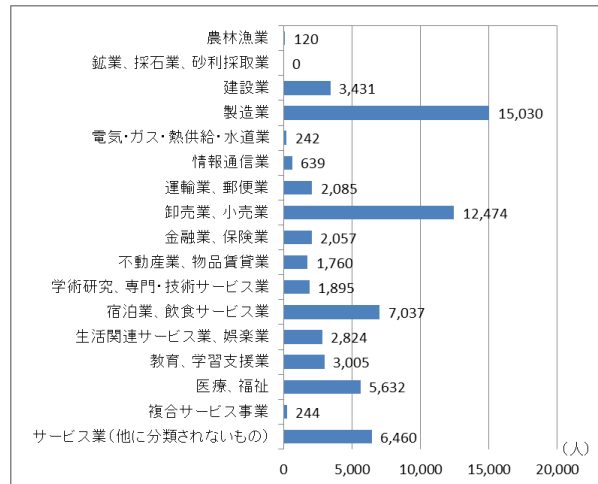
①草津市の産業

◎市内には国内有数の大手企業が立地

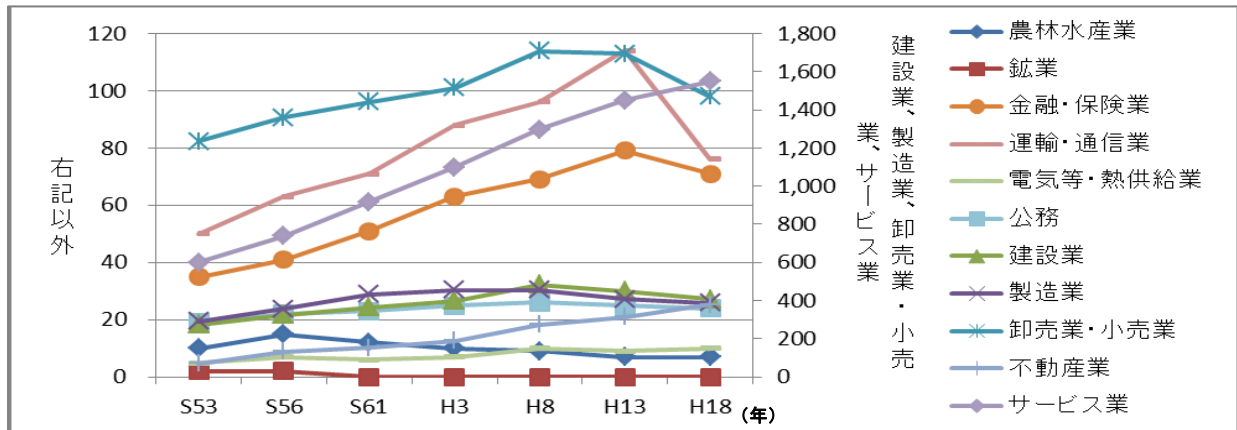
草津市の産業は事業所数で見ると、「卸売業・小売業」が1,175か所で最も多いが、従業員数で見ると「製造業」が15,030人で最も多い。これは、広域交通の利便性の高さから、オムロン、パナソニックなど国内有数の大手企業が立地していることによる。(平成21年は企業統計調査から経済センサスに調査分類が変更になった。)



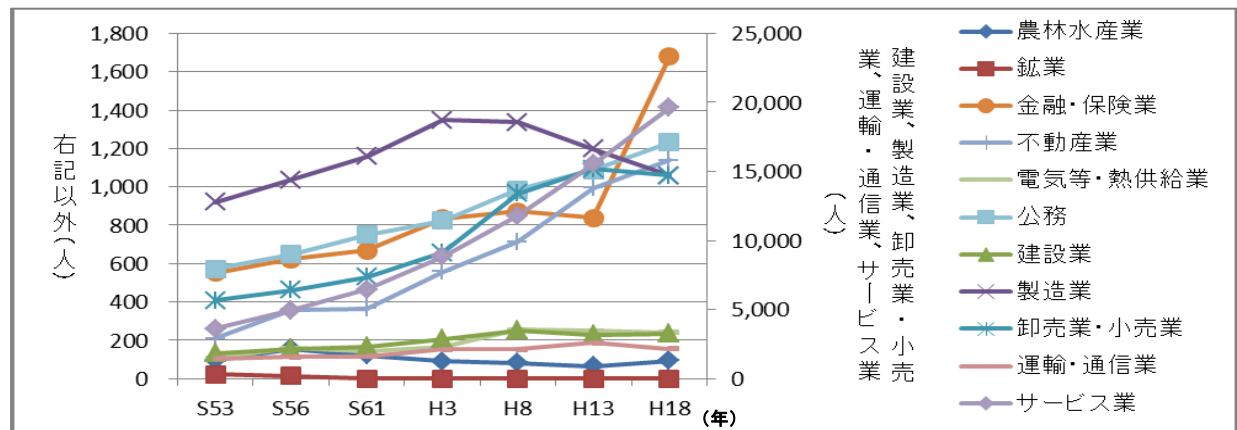
● 図 1-50 H24 草津市内の産業別事業所数
(出典：平成 24 年経済センサス)



● 図 1-51 H24 草津市内の産業別従業員数
(出典：平成 24 年経済センサス)



● 図 1-52 草津市内の事業所数の推移 (出典：各年事業所・企業統計調査)

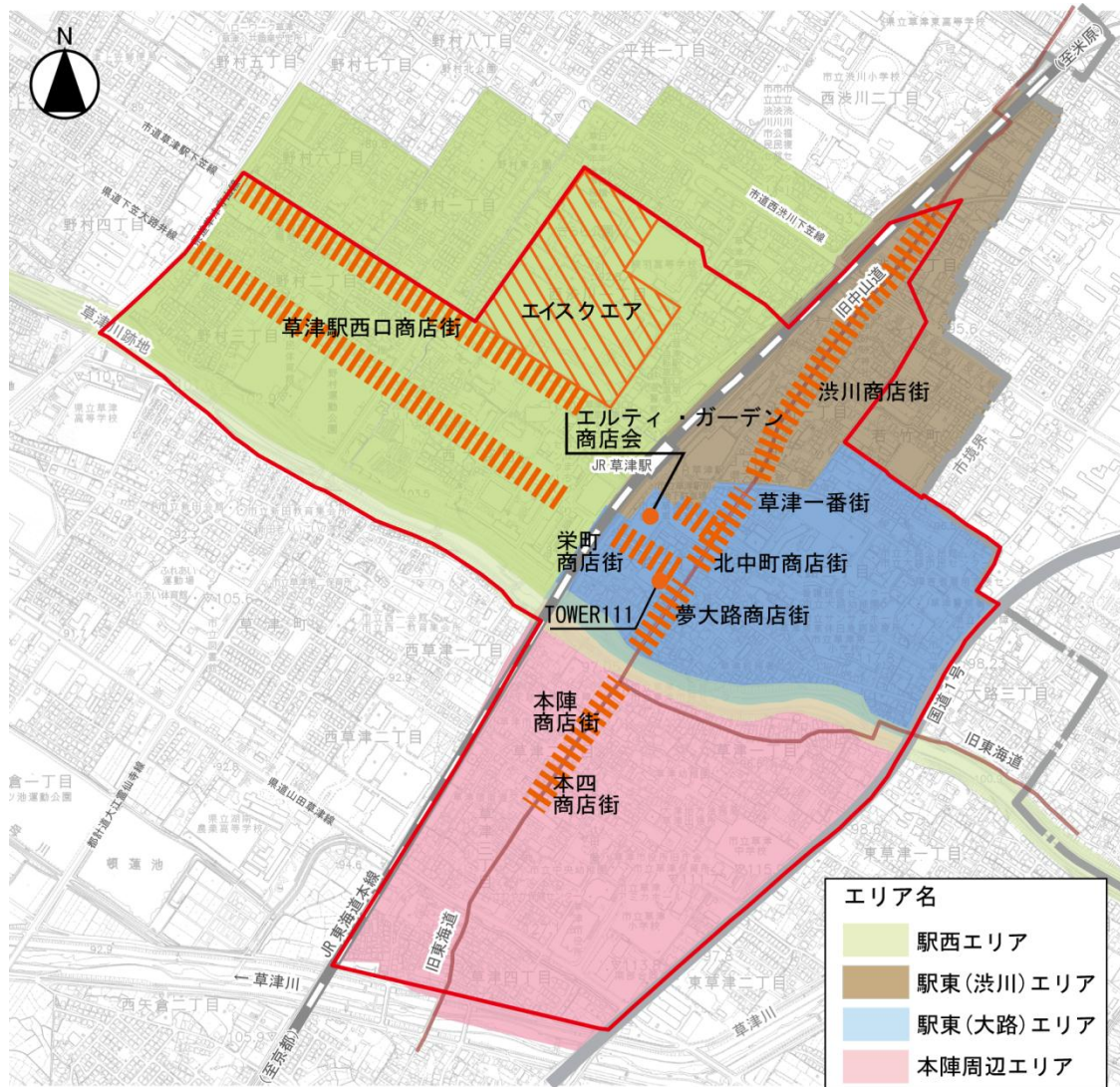


● 図 1-53 草津市内の従業員数の推移 (出典：各年事業所・企業統計調査)

②中心市街地の商店街の小売商業の推移

◎ JR草津駅を中心に 10 以上の商店街が立地

中心市街地内の商店街は、JR 草津駅を中心に形成されており、駅西エリアに「草津駅西口商店街」、「エスクエア（草津駅西口商店街加盟店）」、駅東（渋川）エリアに「渋川商店街」、駅東（大路）エリアに「草津一番街商店会」、「北中町商店街」、「夢大路商店街」、「栄町商店街」、「エルティ・ガーデン商店会」、「Tower111 商店会」、本陣周辺エリアに「本陣商店街」、「本四商店街」がある。



● 図 1-54 中心市街地計画区域内の商店街の立地

エリア名	エリア内の商店街
駅西エリア	草津駅西口商店街、エスクエア（草津駅西口商店街加盟店）
駅東（渋川）エリア	渋川商店街
駅東（大路）エリア	草津一番街商店会、北中町商店街、夢大路商店街、栄町商店街、エルティ・ガーデン商店会、Tower111 商店会
本陣周辺エリア	本陣商店街、本四商店街

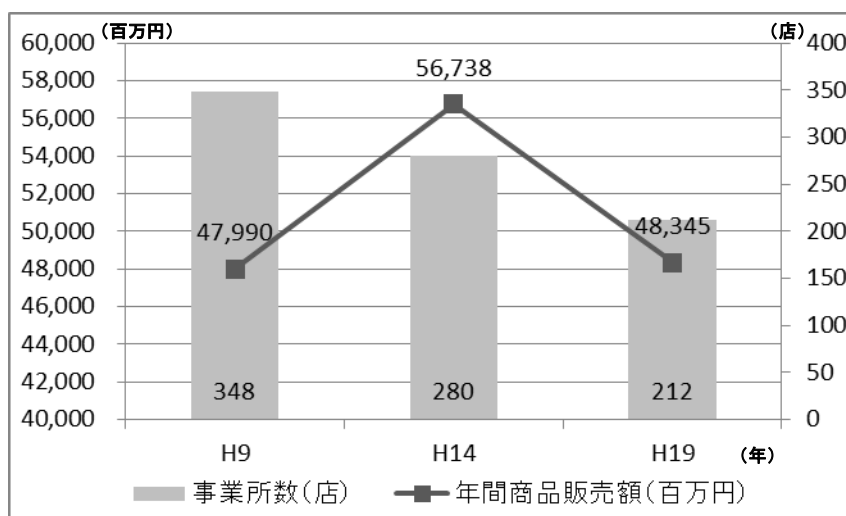
◎商店街の売り上げは減少、大型店では平成14年がピーク

中心市街地内の商店街の事業所数は平成9年から19年の11年間で約6割にまで落ち込んでおり、年間商品販売額も減少傾向である。中心市街地全体として平成9年から14年にかけては増加しているが、(平成9年に近鉄百貨店草津店が、平成11年にエイスクエア・ノース(ディオワールド草津店)が開業)、平成14年から19年にかけて減少している。

中心市街地内の各団体の事業所数と年間商品販売額は増えているところもあるが、平成9年から19年の10年間にかけて減少しているところが少なくない。

	事業所数(店)			年間商品販売額(百万円)		
	H9	H14	H19	H9	H14	H19
駅前エリア						
澁川商店街	23	21	17	1,026	15,625	14,062
草津一番街商店会	34	4	10	6,703	272	649
北中町商店街協同組合	21	31	23	3,426	6,243	4,367
栄町商店街協同組合	5	5	5	301	243	114
夢大路商店街振興組合	54	45	23	2,367	1,749	711
大宮町商店街	11	-	-	747	-	-
栄町・草津中央・中ノ町商店街	19	-	-	582	-	-
トンネル街商店街	24	-	-	1,038	-	-
エルティ・ガーデン商店会	43	34	14	5,549	3,075	411
Tower111商店会	20	-	6	4,626	-	178
草津駅前商店街	20	-	-	4,626	-	-
大路・澁川エリア合計	200	140	98	23,998	27,207	20,492
本陣周辺エリア						
本陣商店街	51	37	28	1,440	712	922
元町商店街	6	-	-	353	-	-
本一商店街	10	-	-	575	-	-
本二商店街	20	-	-	288	-	-
本三商店街	15	-	-	224	-	-
本四商店街	12	13	10	237	184	150
本五商店街、本六商店街	13	11	10	344	133	113
草津エリア合計	76	61	48	2,021	1,029	1,185
駅西エリア						
草津駅西口商店街	28	30	16	2,353	1,311	918
エイスクエア(草津駅西口商店街加盟店)	44	49	50	19,618	27,191	25,750
駅西エリア合計	72	79	66	21,971	28,502	26,668
中心市街地内商店街合計	348	280	212	47,990	56,738	48,345

●表 1-12 中心市街地内の各団体の事業所数と年間商品販売額 (出典：各年商業統計調査)

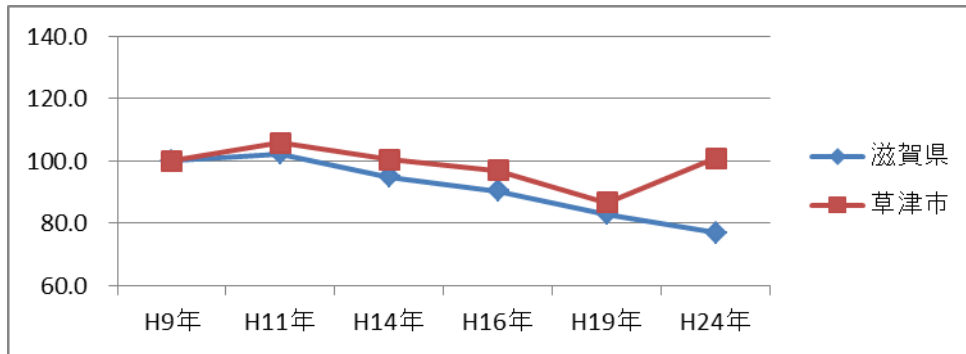


●図 1-55 中心市街地内の商店街の事業所数と年間商品販売額の推移 (出典：各年商業統計調査)

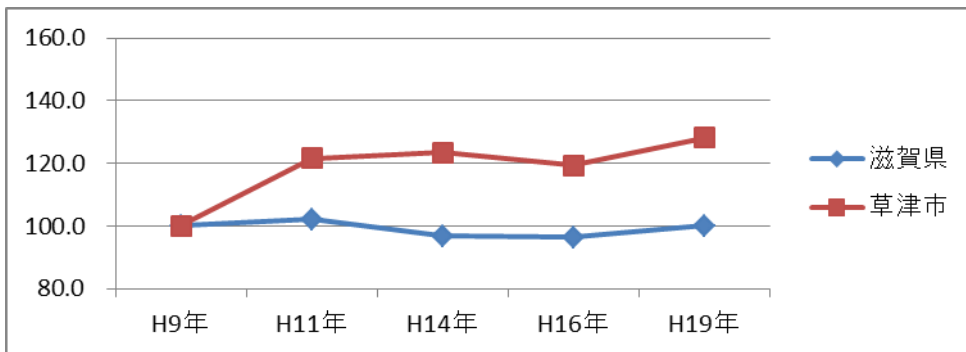
参考：滋賀県と草津市の商業関係データ（平成9年を100とした場合の推移）

草津市の小売業店舗数は、平成9年から19年にかけて滋賀県全体と同様に減少傾向である。しかし、草津市の年間商品販売額は滋賀県全体と異なり、増加していることから、草津市での消費活動は活発になっていることがわかる。また、滋賀県、草津市ともに店舗数は減少しているが、売り場面積が増加し、小売業の従業員数が増加していることから、大型小売店舗の出店が進んでいることがわかる。

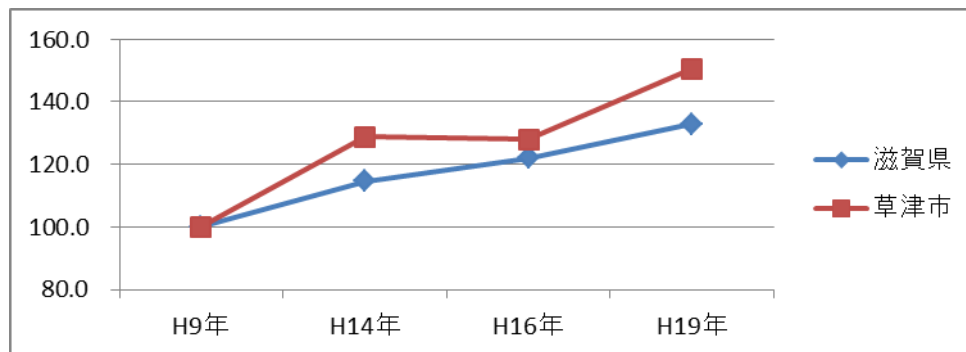
(注) 出典：平成19年以前の数値は「商業統計調査」、平成24年の数値は「経済センサス活動調査」



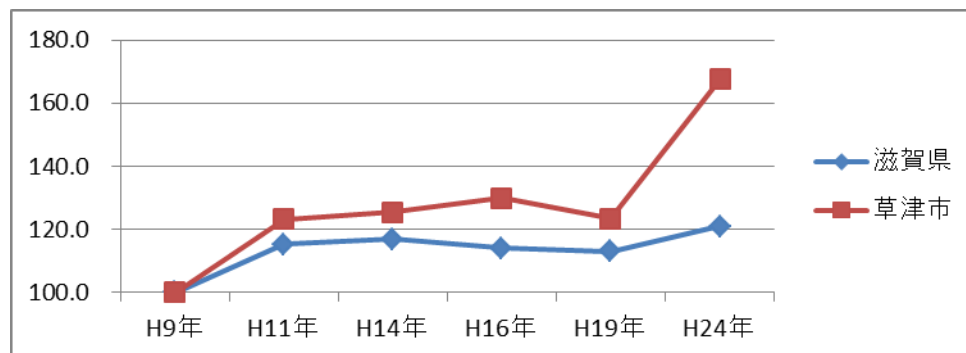
● 図 1-56 小売業の店舗数の推移



● 図 1-57 小売業の年間商品販売額の推移



● 図 1-58 小売業の売り場面積の推移



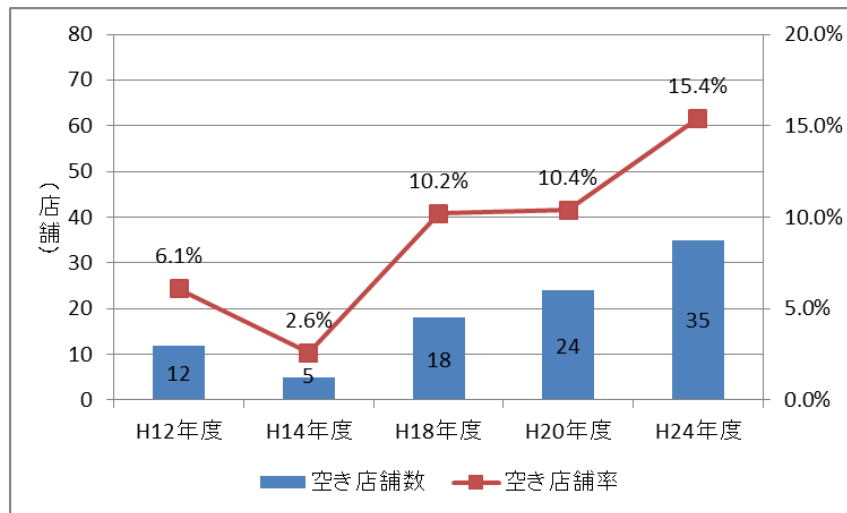
● 図 1-59 小売業の従業員数の推移

③空き店舗の状況

◎空き店舗は増加

中心市街地内の 20 店舗以上が道路に隣接し、商店街区域を形成している商店街（本四商店街、本陣商店街、夢大路商店街、北中町商店街、草津一番街商店会）についての空き店舗調査によると、空き店舗数も空き店舗率も増加している。しかし、飲食店や全国展開チェーン店等の出店はところどころで見られる。

古くからの商店街では、店舗と住居が一体になっており、店舗としての利用はなされなくなっているが、住居として利用されている場合が多く見られる。



※上図の調査対象商店街：本四、本陣、夢大路、北中町、草津一番街
(20 店舗以上が道路に隣接し、商店街区域を形成している商店街)

● 図 1-60 空き店舗数、空き店舗率の推移

■空き店舗の状況（草津市まちなか再生課の調査）

平成 24 年度に本市で以下のような空き店舗の調査を実施した。

調査基準日：平成 24 年 9 月現在

調査対象：JR 草津駅を中心とした草津市中心市街地活性化基本計画区域内

調査方法：現地における目視調査

調査項目：空き店舗数、営業店舗数

※店舗数については、テナントビル等で区画割数の変更等や、所有者の店舗経営若しくは貸付の意思によって変わるため、あくまで参考値(空き店舗状況の傾向)として取り扱う。

また、この調査では、営業店舗、空き店舗を次のように定義している。

【営業店舗】

・現に営業している小売業、飲食業、サービス業等の店舗（消費者が商品やサービス等の購入ができる場所）

例：百貨店、総合スーパー、大型ディスカウント店等の大規模小売店舗、衣料、食品、日用品、薬店、コンビニ等の小売店舗、飲食店、病院、金融機関、理美容、クリーニング、レンタルショップ、遊技場、有料駐輪場、塾等のサービス店等

- ・大規模小売店舗については、1店舗としてカウントしている。
- ・「小売業、飲食業、サービス業等の店舗」ではない事務所は除いている。

【空き店舗】

- ・従前店舗として利用された建物で、廃業、移転等により現在は空きスペースとなっているもの。利用者が現れるまでの間、暫定的に車庫、物置等として使用しているものも含めている。
- ・テナントビル等のテナント待ちの状態店舗として活用できるもの。
- ・ただし、建物が撤去され、駐車場や空き地、住宅等になった場合は除いている。

中心市街地全体における空き店舗の状況は、その多くが草津駅東側に点在している。全体の店舗数は724軒、そのうち営業店舗数は649軒、空き店舗数は75軒、空き店舗率は約10%である。（なお、調査店舗数については、テナントビル等で区画割数の変更等により、店舗数が変わるため、あくまで参考値とする。）

また、中心市街地の区域を、本陣周辺エリア、駅東（大路・渋川）エリア、駅西エリアの3つに分けると、以下のような結果となった。

ア. 本陣周辺エリア

- ・本陣周辺エリアにおいて、旧東海道沿いを中心として特に空き店舗数の増加が顕著である。
- ・本陣周辺エリア全体の店舗数は150軒、そのうち営業店舗数は126軒、空き店舗数は24軒、空き店舗率は約16%である。

イ. 駅東（大路・渋川）エリア

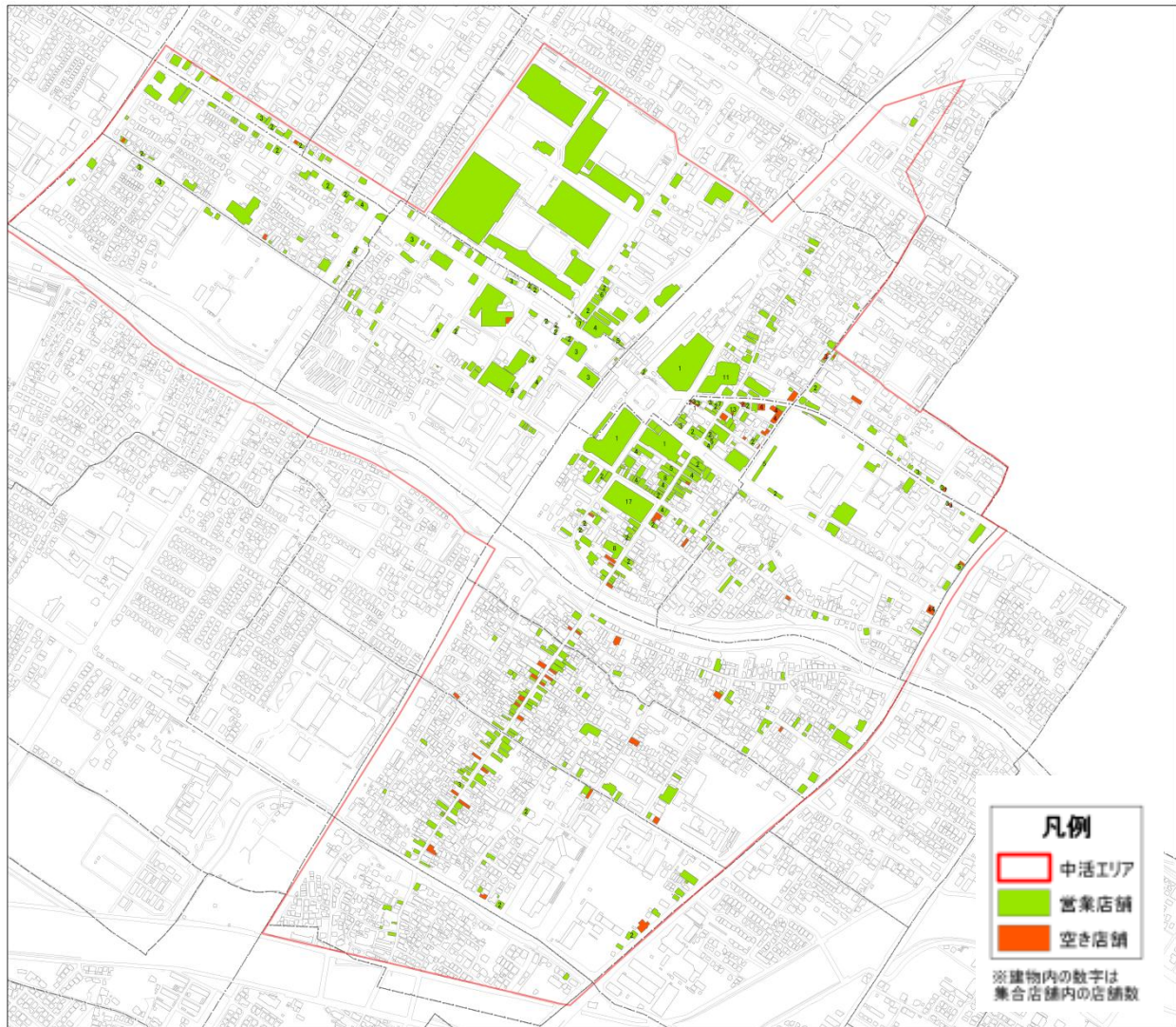
- ・駅東（大路・渋川）エリアにおいては、空き店舗が点在している。
- ・特に西友跡地の北西側のブロックには、空き店舗が集まっている。
- ・駅東（大路・渋川）エリア全体の店舗数は368軒、そのうち営業店舗数は321軒、空き店舗数は47軒、空き店舗率は約13%である。

ウ. 駅西エリア

- ・駅西エリアにおいては、空き店舗がほとんどない。しかし、駅から離れたところに3軒の空き店舗が点在する。
- ・駅西エリア全体の店舗数は206軒、そのうち営業店舗数は202軒、空き店舗数は4軒、空き店舗率は約2%である。



●図 1-61 本陣周辺エリア（空き店舗数の増加が顕著）



●図 1-62 中心市街地内の空き店舗の分布

H24. 9

	全店舗数	営業店舗数	空き店舗数	空き店舗率
駅西エリア	206	202	4	1.9%
駅東エリア	368	321	47	12.8%
本陣周辺エリア	150	126	24	16.0%
エリア合計	724	649	75	10.4%

※大規模店舗は1店舗としてカウントしている。

●表 1-13 中心市街地内の空き店舗数、空き店舗率

④歩行者通行量（草津市まちなか再生課の調査）

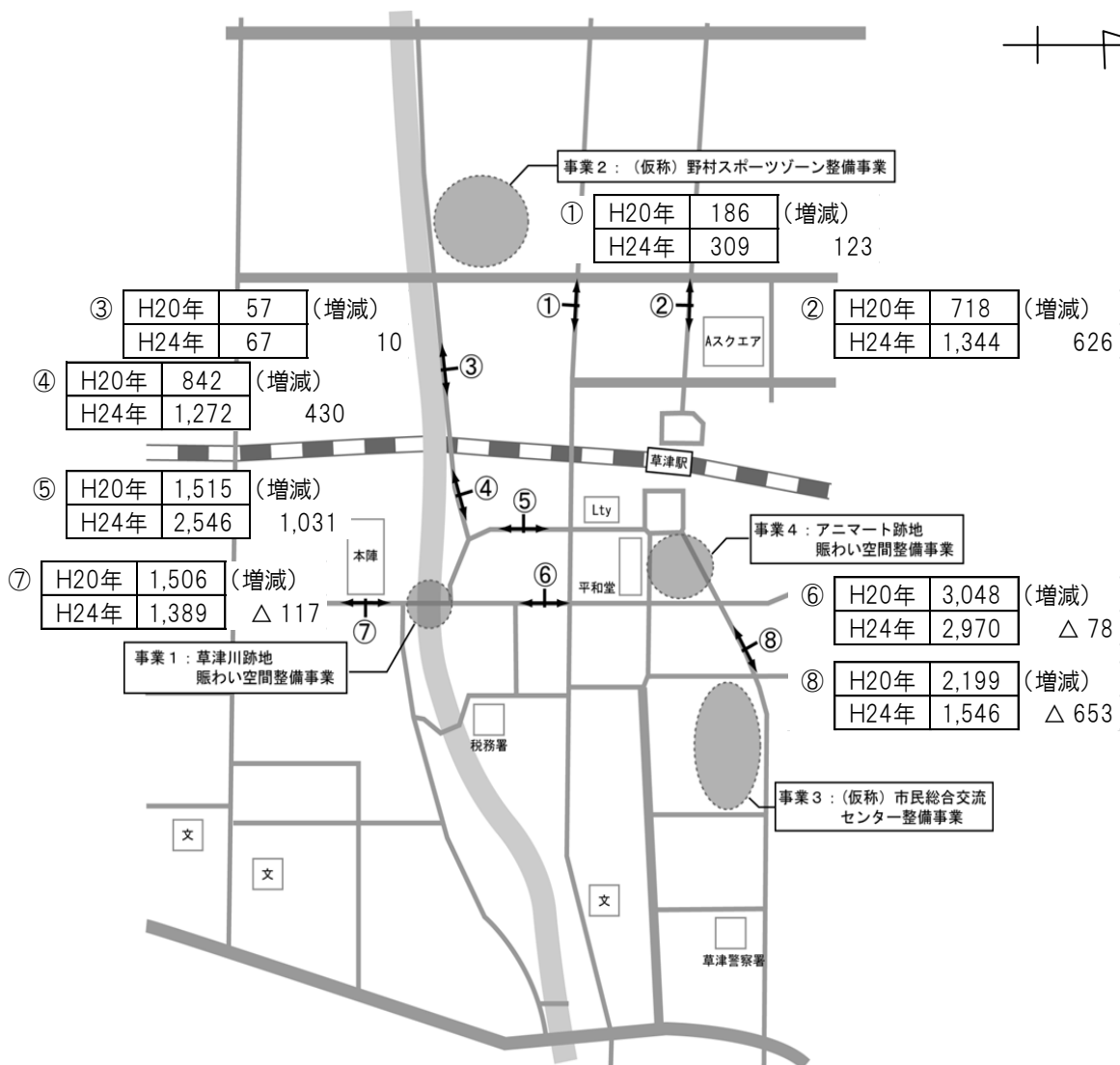
◎古くからの住宅地、商店街で歩行者通行量が減少

平成14年から平成20年にかけては、隔年で8月第一水曜日の10:00~20:00（連続10時間）で商工会議所による交通量調査が実施されている。また、平成24年には、8月29日（最終水曜日）の8:00~20:00（連続12時間）で草津市まちなか再生課が独自で調査を行った。

平成20年から平成24年の推移（10:00~20:00）をみると、⑥、⑦、⑧の駅東側で歩行者通行量が減少している。⑥、⑦の地域では、古くからの住宅地、商店街があり、昔はにぎわいのあった場所であるが、人口数や事業所数、店舗数、従業員数の減少とともに、南草津駅の新快速停車によって、矢倉や本六周辺の人の流れが変わったことにも影響され、歩行者数が減少し、にぎわいが低下したことが挙げられる。⑧の地域では、店舗数や事業所数、従業員数の減少などにより、歩行者数が減少したことが要因として挙げられる。

一方、①、②の駅西側では歩行者通行量が増加している。この地域では、人口数や事業所数、店舗数、従業員数の増加したことが要因として挙げられる。

④、⑤については、平成20年から平成24年にかけては歩行者通行量が増加している。その要因として、JR草津駅からこの経路を通り通勤している大規模事業所の従業員数の変化が大きく影響していることが挙げられる。



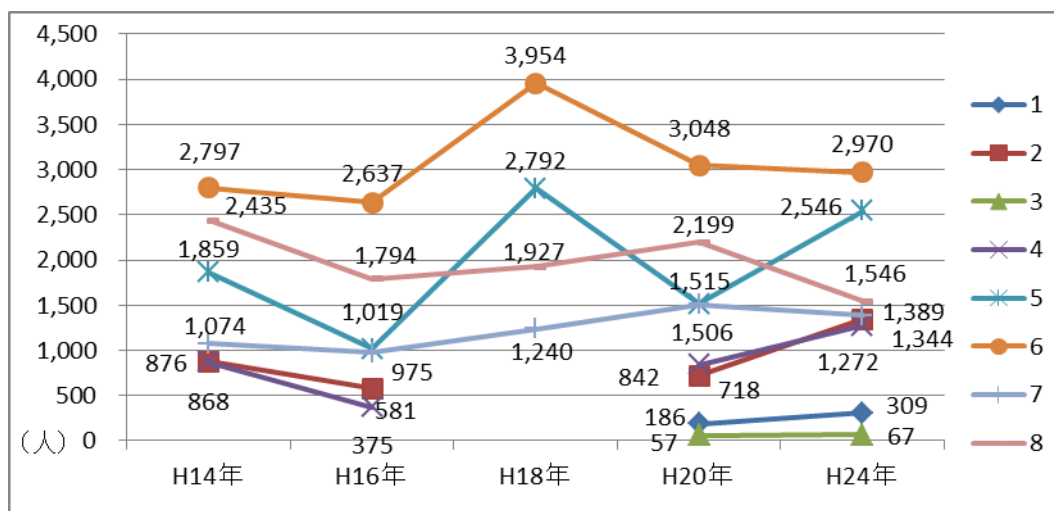
● 図 1-63 歩行者通行量調査地点

NO.		(行)方向	(行)方向	10時間合計
1	H14年	(東) -	(西) -	
	H16年	-	-	
	H18年	-	-	
	H20年	106	80	186
	H24年	156	153	309
2	H14年	(東) 433	(西) 443	876
	H16年	291	290	581
	H18年	-	-	
	H20年	287	431	718
	H24年	676	668	1,344
3	H14年	(東) -	(西) -	
	H16年	-	-	
	H18年	-	-	
	H20年	42	15	57
	H24年	37	30	67
4	H14年	(東) 243	(西) 625	868
	H16年	168	207	375
	H18年	-	-	
	H20年	159	683	842
	H24年	1,027	245	1,272
5	H14年	(北) 958	(南) 901	1,859
	H16年	551	468	1,019
	H18年	1,507	1,285	2,792
	H20年	988	527	1,515
	H24年	1,605	941	2,546
6	H14年	(北) 1,382	(南) 1,415	2,797
	H16年	1,462	1,175	2,637
	H18年	2,228	1,726	3,954
	H20年	1,785	1,263	3,048
	H24年	1,595	1,375	2,970
7	H14年	(北) 650	(南) 424	1,074
	H16年	563	412	975
	H18年	732	508	1,240
	H20年	933	573	1,506
	H24年	891	498	1,389
8	H14年	(東) 1,004	(西) 1,431	2,435
	H16年	834	960	1,794
	H18年	1,017	910	1,927
	H20年	1,085	1,114	2,199
	H24年	797	749	1,546

NO.	(行)方向	(行)方向	10時間合計
1	(東) 476	(西) 537	1,013
2	(東) 901	(西) 1,024	1,925
3	(東) 58	(西) 68	126
4	(東) 48	(西) 91	139
5	(東) 275	(西) 360	635
6	(北) 2,506	(南) 1,976	4,482
7	(北) 2,200	(南) 1,815	4,015
8	(東) 420	(西) 354	774

●表 1-15 各調査地点の自転車通行量
(H24年度調査)

●表 1-14 各調査地点の歩行者通行量

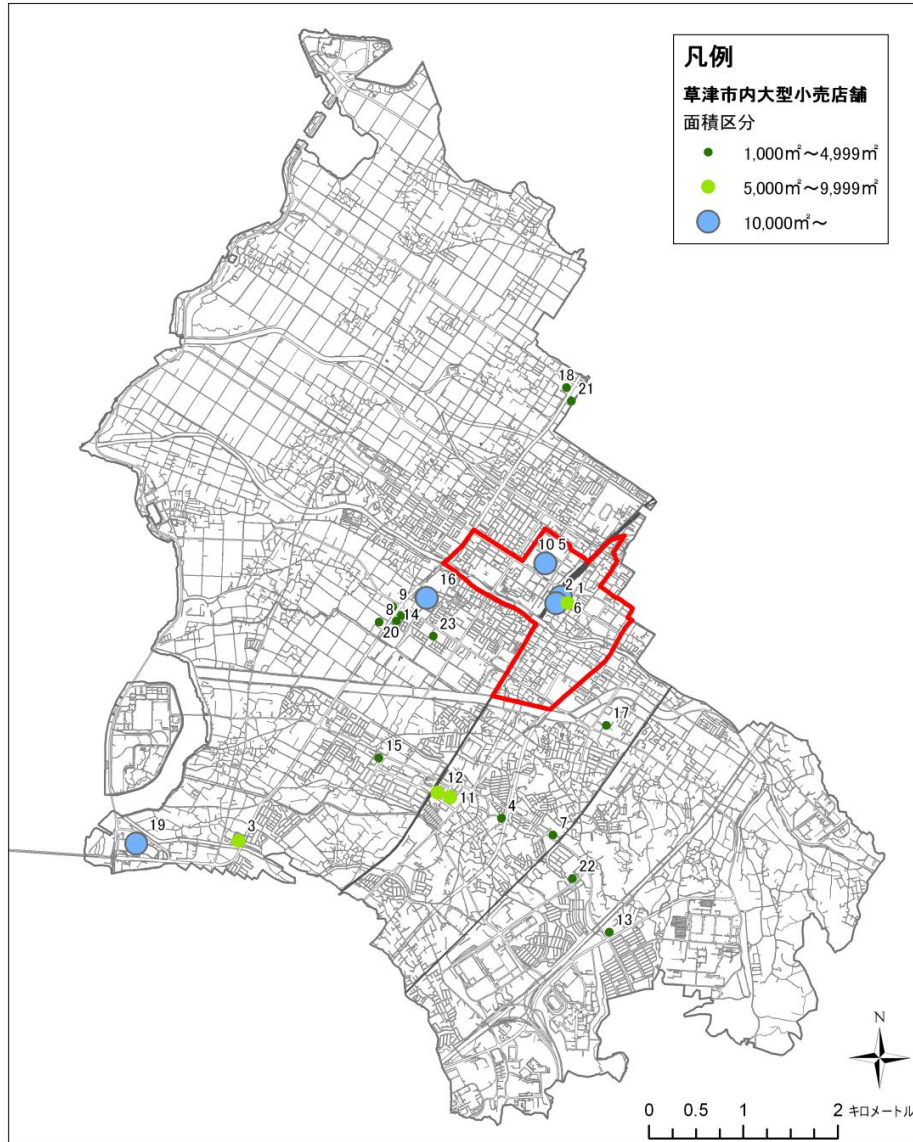


●図 1-64 歩行者通行量の推移

⑤大型店の概要

◎鉄道駅周辺、主要道路沿いに大型小売店舗が集中

延床面積 5,000 m²を超える大型小売店舗は鉄道駅周辺に集中しており、その他は主に主要道路沿いに分布している。市の南西部には商業施設面積 86,000 m²、施設全体の床延面積が 177,000 m²の超大型の複合施設（19番）が立地している。



●図 1-65 草津市内の延床面積 1000 m²以上の大型小売店舗の分布
 （出典：東洋経済新報社 『全国大型小売店舗総覧』 2012. 8. 8 発行）



●図 1-66 大型小売店舗（左：郊外型、右：ロードサイド型）

番号	名称	住所	主な取扱い商品	開店日	店舗面積 (㎡)
1	くさつ平和堂	大路 1-10-27	食料品、衣料品	1968年9月	9,243
2	エルティ 932	大路 1-1-1	食料品、家庭用品	1989年4月	13,925
3	KINSHIN 近江大橋店	新浜町 55-1	家具類	1994年11月	9,138
4	マツヤスーパー矢倉店	東矢倉 4-555	食料品、家庭用品	1995年1月	1,565
5	エイスクエア (平和堂アル・プラザ草津)	西渋川 1-23-30	総合	1996年3月	55,089
6	近鉄百貨店草津店	渋川 1-1-50	総合	1997年9月	21,700
7	平和堂フレンドマート 追分店	追分町 1236	食料品、衣料品	1997年10月	2,300
8	ヒマラヤスポーツ草津店	木川町 91	スポーツ用品	1997年12月	3,629
9	ケーズデンキ草津本店	木川町 302-1	家電	1997年12月	3,400
10	エイスクエア・ノース (ディオワールド草津店)	西渋川 1-23-1	食料品、家庭用品	1999年2月	13,435
11	SEIYU 南草津店	野路 1-13-36	食料品、衣料品	2000年6月	6,428
12	フェリエ南草津	野路 1-15-5	衣料品、身の回り品	2002年7月	5,422
13	スターグリーンヒル店	若草 1-2-1	食料品、家庭用品	2004年12月	1,607
14	サンミュージック DELIGHT 草津店	木川町 72	書籍・雑誌、音楽ソフト	2005年6月	2,646
15	平和堂フレンドマート 南草津店	南草津 5-1-1	食料品、家庭用品	2005年10月	1,750
16	ホームセンターコーナン 草津店	木川町 389	DIY 関連用品、 家庭用品	2005年12月	18,482
17	平和堂フレンドマート 志津東草津店	追分町 5	食料品、家庭用品	2007年6月	2,980
18	マックスバリュ駒井沢店	駒井沢町 78	食料品、家庭用品	2007年10月	4,510
19	イオンモール草津 (イオン草津)	新浜町 300	食料品、家庭用品	2008年1月	60,000
20	J. J. TOWN kinokawa (ドン・キホーテ草津店)	木川町 311-1	食料品、家庭用品	2008年4月	3,089
21	BOOKOFF 滋賀草津駒井沢店	駒井沢町 33	書籍・雑誌、音楽ソフト	2009年7月	1,312
22	ハイパーブックス かがやき通り店	追分町 1519	書籍・雑誌、音楽ソフト	2009年8月	2,388
23	スーパーマーケットバロー 草津店	草津町 1986	食料品、家庭用品	2010年5月	1,759
	関西西友草津店 (※2000年2月閉店)	大路 2 丁目	衣料品、家庭用品、食 品	1973年11月	7,351

※網掛け：中心市街地内の大型小売店舗

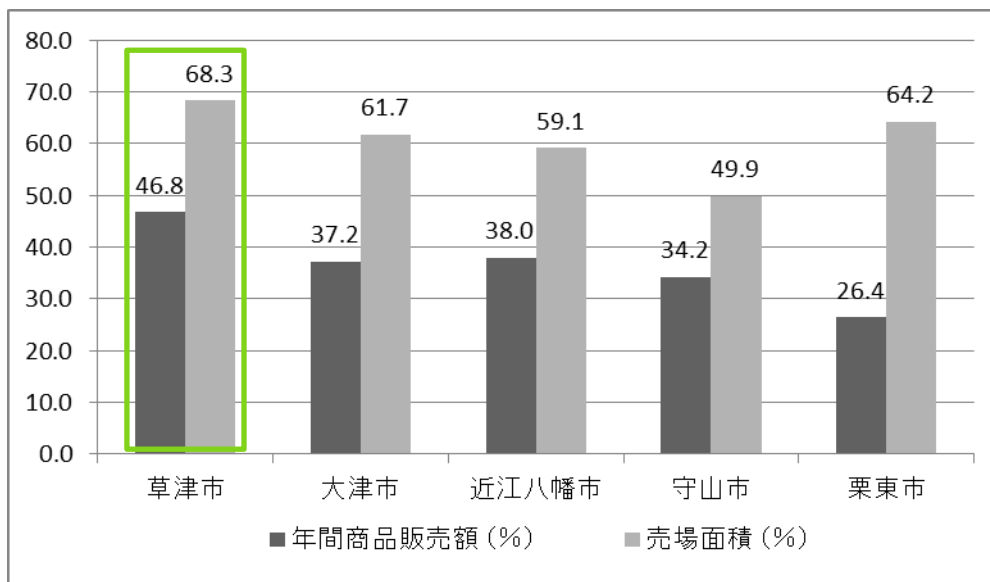
●表 1-16 草津市内の大型小売店舗一覧（出典：東洋経済新報社『全国大型小売店舗総覧』2012. 8. 8 発行）

◎周辺都市と比較しても高い草津市の大規模小売店舗の占める割合

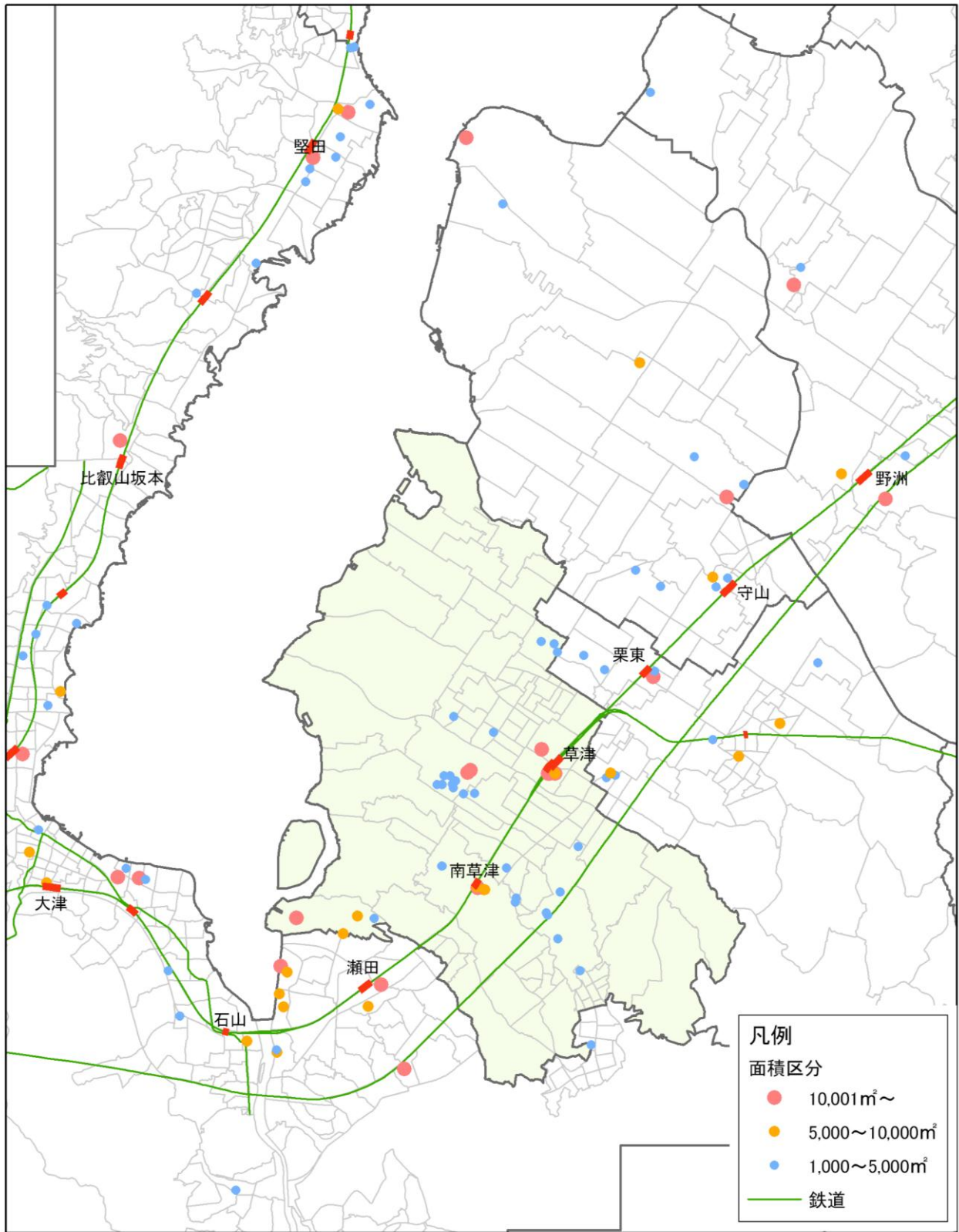
周辺の市と比較して、小売業に占める大規模小売店舗の商品販売額、売り場面積の割合は共に高く、販売額は小売業全体のほぼ半分の割合を占めている。このことから、消費者の商品の購入場所が大規模小売店舗に集約している状況が分かる。

	大規模小売店舗数	大規模小売店舗内				小売業に占める割合			
		小売事業所数 (店)	従業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)	売場面積 (㎡)	事業所数 (%)	従業者数 (%)	年間商品販売額 (%)	売場面積 (%)
滋賀県	183	1,278	25,867	47,057,145	1,013,784	11.0	30.5	34.6	56.7
草津市	18	111	3,021	6,822,185	128,083	13.8	38.1	46.8	68.3
大津市	34	363	6,228	10,401,845	223,428	15.9	33.2	37.2	61.7
近江八幡市	13	112	1,848	3,611,984	81,162	15.2	32.2	38.0	59.1
守山市	11	63	1,133	2,545,961	43,167	11.0	27.4	34.2	49.9
栗東市	10	42	955	2,029,419	42,436	10.7	25.6	26.4	64.2

●表 1-17 草津市と周辺都市の大規模小売店舗の状況（出典：平成 19 年商業統計）



●図 1-67 小売業に占める大規模小規模店舗割合（出典：平成 19 年商業統計）



● 図 1-68 草津市と周辺都市の大規模小売店舗の分布